





太上天皇

あつひ乃巻の御位を控りておぼひ林の巻に  
から後給ぬ相奉のふかき



前坊

故院の御位を御位と仰ふひよ見せらる

秋好中宮 母六条御所

あつひに十宮御位を立給ひてはくくに起へ  
ゆりも給ふ命よりゆり給て梅はわたり  
し妙中宮に立給ひ御位を御位に仰か  
せ給ふ

桃園式部宮

あつひ乃巻ふ沙桜は終りわり失給ふ  
雲の巻よりとて

權女院

柿ふかきといひさふかき  
にふかきつらき地ふかき  
さすもせ給ふ

三宮

院のちや川沙桜は終りわり失給ふ  
さすもせ給ふ

女御宮

さすもせ給ふ

朱雀院 母弘徽殿大后

さすもせ給ふ  
に位と喜宮は終りわり失給ふ  
さすもせ給ふ  
下は一院とすい沙門と

今上 母美香殿女御

あつひ乃巻ふ二歳と見給ふ  
う校は沙の服り終りわり失給ふ

春宮 母あゝの中文

しんかのうしんはくく日一下に坊ふか

式部宮 母まふ日

白文卷ふ夕旁の中まを之く六条院乃夜殿  
とやまふふふしは二宮と字にかけうす式部

白文部宮 母日一

りれ乃下ふし終は白文卷に之張くま部  
ふはまふしをふひ終一三宮

若君 母あゝの中文

をとりまふすまふし終は

常陸宮 母文衣

白文卷ふ夕旁乃ちお乃られくうりし終  
一白文部宮ふ白くまふし人ま宮と字に  
中務宮 母まふ日

日乃られ日夕旁ちお乃られくうりし終  
のせ終一ふの文おまふまふちま乃はまよこの  
母乃ら終又をる本にふ終乃ふと殿まあひ  
一白文 母日まふ

終まふしをふし終く六条院のまのやうら  
ふはまふしをふちおまふまふし

女二宮 つくろ壺女

尾崎の末にうらのゆきをよそく薫たわとしに

女一文 日れのうらむ

おち葉乃文 つくろ壺女

りこれの下にわしとくらのちまのせのふ乃方にたれ

のらく夕常たわしひやうけり

二お内親 母之帝源氏文

りこれ乃てふくま後よりうらむと日下に二お

けり 木の巻より

女一文 りこれ乃てふ

六條院 母相壺更衣

七葉より遷りてけり十三あり之服常木にす

に大おは 三三位 中お 日巻に宰相 中お わり

に大おは 三三位 中お 日巻に宰相 中お わり

つら 内大臣 中お 日巻に宰相 中お わり

乃 言 中お 日巻に宰相 中お わり

に 太上天皇 中お 日巻に宰相 中お わり

夕常たわ 母葵上

りこれ乃てふくま後よりうらむと日下に二お

三つあつて二つのはる日巻乃秋陣目さかぬり  
給朱蔭院行幸此は侍従さかぬ玉かつてに  
中おぬらさるゆゑ亭相<sup>中</sup>取のうゑあつて中  
細云りれ乃さる右おのり下に大細云さる  
たちおのり侍と白文巻よ右大臣<sup>中</sup>行行  
たち足<sup>中</sup>辞たお

右束門侍 母三条上

りれ乃下よ朱蔭院沙堂の成天乃侍<sup>中</sup>さか  
ゆりき女末乃英よ侍<sup>中</sup>あつて侍白言の  
まゝさる乃うられ目<sup>中</sup>はさる一人又白言の文

うらあつて<sup>中</sup>侍白言の<sup>中</sup>日中文乃侍<sup>中</sup>使さるゆ  
うゑさるゆゑあつて侍<sup>中</sup>さる乃日<sup>中</sup>さる

中細云 母右大臣

六条院及乃ゆゑさるゆゑさるゆゑさるゆゑ  
朱蔭院此沙堂乃成天乃侍<sup>中</sup>さる白先<sup>中</sup>若と  
日くゆり給ゆゑりれの下よさる白文巻よ  
乃さるの目右侍<sup>中</sup>侍さるゆゑさる一人

右大臣 母三条上

さるの言乃巻よ乃さるの目<sup>中</sup>はさる一人推<sup>中</sup>さ  
にさるゆゑさるゆゑさるゆゑさるゆゑさるゆゑ  
さるゆゑ

侍従宰相

母不憂三葉上欽

推く幸よ白言くつせゆその母を人  
源宰相中将 母三葉上

そや及苑人か竹何し三位中お日巻に  
宰相中お推く幸よの推中おくそう又幼の  
巻よおの一人くさう殿く路くし海は  
人くくや

从中の母取内侍

竹何し源かおくそうかとう本よ白言くま  
ようしひりあ路くまふおくくの使よ

約よひおくは一人推く本に从か将

し海は一人が海

三位中将 母三葉上

一ふ又沙か人此時横何乃後部此もと申文  
沙使せ一人竹何し若清作推く本に苑人  
高

屋何し本に今よ乃女二言後此えり路

母弟何し一人七言若く者

喜宮女御 母三葉上

白又巻く喜宮女御



中君 くわが 二の文 れい 方 母内約款

三君 母内約款

四君 母之系上

五君 母おのり 望三人 夕勢 卷下 母

六君 母内約款より本より白文れい方になり 孫おちん 乃文の系より孫一人 白文より母

董右大将 母朱雀院女三文

白官れ 卷下之 膝下 官位約款より本より孫おちん

中将 年十四 杉形 卷下之 孫にして宰相になり

中お 竹下 中細云 孫より本れ 二月 本れに

お之 孫大細云 孫より 右大将 孫より

の石中文 母明云

三月 本あり 此節より 孫

松風 系より あり 大井に 孫より 孫

に六条院へ 孫あり 孫より 孫

叔系 今とき 孫あり 中官白文より 孫

雲長 部中文

そと 孫あり 孫より 朱雀院れ 孫

孫あり 孫あり 孫梅に 孫

侍従 くわが

梅より 六条院より 孫あり 孫

書文

曰

は二人のれ下に朱雀院乃沙堂此誠亦一方策  
未くすひ終る

文部方 母すきねのこ

ちく文先終ひて後母君も是く梅巻に

梅巻大納言此もと一終終白告教々文くた

所とてあつひ終る

守實 母兼香殿女御

秋風木浦のり人

肺文

雲よ六条院乃る場のはくくわよの告教又  
よ守ひとやうく終る人

八宮 母大臣女

守治より終る梅巻よ思ひくくくく

総角大臣 母大臣女お守すこの巻よ終る

中君 母曰

お守すきよよ告教々文に合くさうひよ二条院  
へひと終る終る

三君 くる常陸乃今の山方

御前におもひなほりてあはれをいせりてあはれをいせりてあはれをいせりて

式部卿

あつ南や... 薫たおよき... 加守ら... 丹後 丹後とよみお

文君 母が... 薫たおよき... 丹後院

丹後院... 薫たおよき... 丹後院

一品 薫たおよき... 丹後院

女二宮 薫たおよき... 丹後院

女二宮 薫たおよき... 丹後院

薫たおよき... 丹後院

之帝

式部宮

初ハ昔々すすハきし女に式部宮とて

源中納言

榮下たそ兼務振うそよふ兼院より双紙かくせ  
給一人りれの下に中納言とてりてり

若君 朱雀院に御実乃侍下の日皇庶章より人  
中将

侍従

民部大輔 三三人ハいそよの表大のめをりて  
時父の孫よりしそよとてり一人

齋黒大將室 母今乃嘗ちおよむり此所如き一人

けさ上 母梅宗大細女

十々ろよの時源氏表むしそり給友のうそ系に  
多車と持り沙汰から給

冷泉院女御 とも齋黒女方より

し女よ入内とてゆりて中乃表とてりて給  
いそよよりいそよとてりて

為女院 衣服宮あり

桐壺より内下り給く有つりて守持給美実  
春宮乃母女御とて之く表よ立林にかさる

おや給とてゆりてに太上天皇より給り  
お

御封の海より世給りて久しき事乃巻に記され給ふ  
源氏宮 母更衣

朱雀院喜文の御所より玉給りて女三文とて  
給有はりて事なきに女給りてより若菜の上

常陸宮

阿圖梨

源氏乃御八海より御りて事なきに事なきに御りて  
少く有る御りて人

蓬ヶ君

是處つじ花の巻に源氏君にあひ蓬ヶ君  
東院に  
つらひ給ふ

橘政太政大臣

まゝりつたれた大臣少く源氏乃君れ加冠せし人  
あり林巻に致仕とてつらに太政大臣より橘  
政一給りて事なきの正月より世給

致仕太政大臣 母三文

相承に院人あわらきくに从中ね給事契に  
正位下次より宰相中将とてつらに権中御  
りて事なきに権大御多し右と大御と事なきし  
女より内大臣有る事なき太政大臣りれ下に致  
仕表しつら御り給りて世給りて白文巻に  
あり

柏木権大細云 母二条大政大臣の君

し女よた近におこころし右近中将かゝる火に从  
中将のれりし事相右邊の終日下に権中細云柏  
木巻よかきの外乃権大細云の如く程のりて

孫梅右大臣 母曰上

林の量少く約さるるの言りての百んちい  
しひくるとつらし之服初みよ弁おりのり  
从弁曰下にた大弁りしきに右細云かゝる  
時一条文の事りしれし人しきし冷泉院へ  
ゆりしもげんかふるし孫梅に梅宗大細云

見権行何し右大細云た大將の言り右大臣  
にたり終りしり又推り下に白文のりし海  
乃ゆりしはゆりし右大細云もげん人よ宥り木  
わすれにしりし梅宗大細云とるふゆり  
大支 孫梅巻に日しりしりし文へしりし  
君のりしりし人

碓麻京奈女にりしりし孫梅の事文へしりし  
中君 ちりしりし

大清門終りしりし右大臣とるふ人よ

藤宰相 ちりしりしりし孫梅の事文へしりし

夕旁乃おやこれ六君にきかた文りよひとあはれひ  
一才三英さうひひ一人又あはれよふ兼院に  
随て冷泉院に海りしもい人にか

从中将

花人わお

この二人すむる一のきよ夕旁乃三人ら兼院上  
一はあはれあひ具しる一人くもあはれさ乃  
らあはれしそり又夕旁大将一兼文一通ひあはれす  
えくくいかおあはれ使すちおあはれとあはれと  
うらうらとさくとのあはれし女はあはれあはれ

依傍後大支とゆもい人られの上よゆり乃時  
も信依大支とゆもこの人になあはれ

八郎君すさくくあはれさうのあはれさくあはれ

人あ乃う系の行業は笑もあはれさくあはれ

玉盤高徳 母夕方のこ

や乃くく夕方のこ乃あはれさくあはれさくあはれ

年乃くく玉あつもの巻よ京へのあはれさくあはれ

ねよ舞黒の心方になあはれ

弘徽殿女御くあはれくあはれ

牙あはれにさくくあはれくあはれ

夕霧右大臣（今）梅原大納言（今）の御

雲舟の御（今）の御（今）の御（今）

近江君 母（今）の御（今）の御（今）

た中弁（今）の御（今）の御（今）の御（今）

人花の御（今）の御（今）の御（今）の御（今）

け人（今）の御（今）の御（今）の御（今）の御（今）

友大納言

喜又右大臣

け二人（今）の御（今）の御（今）の御（今）の御（今）

お（今）の御（今）の御（今）の御（今）の御（今）

ありし女（今）の御（今）の御（今）の御（今）の御（今）

き（今）の御（今）の御（今）の御（今）の御（今）

葵上 母（今）の御（今）の御（今）

葵卷（今）の御（今）の御（今）の御（今）の御（今）

二條大政大臣 朱雀院（今）の御（今）の御（今）の御（今）

わ（今）の御（今）の御（今）の御（今）の御（今）

藤大納言

从弁 林（今）の御（今）の御（今）の御（今）の御（今）

朝展（今）の御（今）の御（今）の御（今）の御（今）

朱雀院（今）の御（今）の御（今）の御（今）の御（今）



宇佐少将

ちかおとく花のえむし路一打源氏の沙汰  
しきりたるなるそのとなくいともゆり人  
た中弁は二人の源氏おむる月長の持ちを初  
ほくしては陣の車に人さすけくとも  
し時弘徽殿よりお給人の沙汰せし  
之又林乃きよ中將文乃きけなきなる  
弘徽殿大和  
朱雀院の沙母あひしと夫者文よせ給家  
よりりれらるる持

柿文少 花のえむしの巻

波は古居室 其乃君くさるる

五君 花のえむし

勝月長侍 ありいに朱雀院にきり

くも殿とす持林乃二月は高侍りれ下に

尾は成給六の君とす

た古居 高文よりすき程にいりてた古居人

女御

冷泉院の侍乃はの女御高侍り

た古居 梅くえのた古居りれ上のもけ人なる

大荒川

修理大丈は二人女流をとりしりて死すたわも  
友左衛門

今上喜宮の御時よりとて其後うの君中言に  
御孫女二の文いふとてしりて死すたわも  
了木に思ふより又梅之は御孫京殿とてしりて  
——三君いふと

大右衛門 竹河大右衛門とてしりて

女夕寄乃おとこの子に宰相中将荒人おとす  
時わひしりて死すたわも

右大佐 今上乃御孫女おとすに右大佐とてしりて

無思太政大臣

こころは右大佐のりしりてたす侍とてしりて右大  
佐とてた大佐を侍とて新帝御とてしりて太政  
大臣とて侍とてしりて竹河とてしりて

友中細公 母武平の女

志木村より十のりしりて殿とて侍とてしりて竹河の  
月と侍母乃侍侍のそとてしりてしりてしりて  
木に友のそとてしりてしりてしりて

次郎君 とてしりて

すまはねのふらふらにゆく母のこゝろに日あたるさくら  
の影一人こもぬ森をがむく日さき

右云清徳 とう玉かつのこ

若菜下に女玉の時折の管吹笛又朱雀院沙堂  
乃日まうわう舞一人竹打にた道中將と見抱  
日巻に右云清徳とく旭糸綴なりとて海やと  
子木に友乃云むの白沙海をいゝるをく人かなく  
右大弁 とう玉かつのこ

い二人玉うつこの君六条院よりれとく海つれは  
田具とくく玉綴又朱雀院沙堂の秋玉日折のこ

當日はより給中あり竹打に右中弁日巻に大弁  
从中将 母り竹打に日巻に从中将  
桔梗とく中細云とく

われの下に雲をの文乃お方と成文夫給く  
はね梅方尾梅家大細云とくあしはお方にたす  
給すまの折はあともあなましく別打とく人  
女御とく玉うつ高侍

竹所の空とく冷泉院へまう給夕霧乃沙子宰相  
乃中お苑人の将とくあしは心けとく給ひ人  
高侍とく女御とく

竹河よりこの様つらとらひへもむかひもあつて  
由へりり給

从中将

源氏大将とすまし一母あはれのほろひのちを  
曉らそとそこの女あく日あつてすけり一人  
此の本れ巻にあつ

美香殿女御

朱雀院の女御今上乃母なりて女給へるし一  
の下にもとる

大臣

六條沙皇はナニとてく氣場へ玉の給聖年一秋好  
申言とて然り十九とて言ふとられ給世あ  
むとあれ女文よ具とていせんとていせんと  
のりてく行へく女給ぬ

大臣

女御 源の八文乃母

大臣

源文小方 娘君ゆらとてすそとてかかれ給り  
源文小方妹 娘君とていせと  
常陸女小方 源の文乃小方のりいそとて中納言

橋ひり

ゆく文にさあしきしあふ女給くはむおの  
君はくはるはにまらふ日しつてあはれ  
こありき

大后

入道情度守

を傍中おたりけふ穉しくとゆの守成りの  
國少くはるはあしこくとに養業乃よはは  
をけりくゆさふにいふ

明石上母中替のこころむまは松風かの道とこれ  
程く大井にゆりし女に六条院にわらう冬の内  
二方とあめ

梅原大納言

書林院律師 源氏乃君のゆきけはな  
中七給一人の林よりむを

相立置更衣 源氏乃君のゆきけはな

いふよらうあつ成ぬりこころやうとくひさ  
琴平と給ふさふ多勢舟よりけしと給と給

梅原大納言

いふ上母もくや山宿給妹人

梅原大納言

五郎君 し女は舞姫のゆきけはなとあしき外

版のしきあしきあり

大将 ねむりつらうわしやう

た近ゆりをうらめしむ

権中細云 大巻の巻くは

た巻の作 源氏中巻の巻方し人の母書か

こ君のいそぎのたしは

実屋ふ乃あはうはせ

空蟬君 又の中細云う

又者唐よりなる

京へのわきま

二巻後の巻後よ

右巻の巻

女とて源氏中巻の巻方し

巻の巻

右巻の巻 母院書

源氏がうらめしむ

むら君の巻

三巻中巻

夕顔上

波はたおとて

かつたて

あし乃院とわんくまのよとねくふせ  
十九

宰相

宰相

玉かつの君乃女房の兼院に後院の  
女書一人竹河巻の書置の字よみ  
しそげ人ふや

兼後原惟光

母大貳乳母

くく然に臣初大楊と見せし女にけの  
た京古吏切けり梅切る宰相

出湯尉

三雲みく殿とせ梅りまきやの五郎と夕芳乃  
文はりし給し使入梅りまき出湯尉行り  
つまねし書置りまき人

兼典侍

五郎乃兼娘夕芳れおくの思人兼兼下に  
ゆゆのまけりまき

山阿弥梨

惟光り阿弥夕芳の口まき

少御令婦

夕良乃奉りまき

三河守書

夕良乃大貳尼のまきり時有き

兼備磨守

源義清

良河海に名字を用

つらき事よ義人よ〜かたがた病の重なり細々と  
刃とけり〜鞆負作し女は右中弁とて世に  
入部 し女巻よ内よ かくれぬ〜

右中弁

宇治文の右方と〜のまじり

弁尼 母〜木の子

女三宮の約後乃妹との書置ちおに昔の  
まじり〜人持と〜早殿と見抱

侍与女

ち〜出は侍とに〜成て実を  
れりおの〜巻よ〜

紀伊守 源氏ゆ〜事人の中何の家何〜実  
屋に何内乃事〜成めよわゆ〜ま〜に  
義人右近将監 源氏右将〜 舟院の道標は  
か〜ゆゆり給〜時一頁とる〜人〜右将次  
乃備よおと〜し〜給〜打殿上の御方〜  
と〜つら〜の〜鞆負尉〜お松風〜  
義人の将書

うつせみ乃君のゆ〜し〜源氏を輝れとあけ



乃其阿ひ給て斬人の衆を殺せしむりて

けりし人

常陸女を殺しし人此はよひに

義人式部丞 母前妻

あはゆ金に内なるもの沙使しく白

義人右近将監 母今方

あはゆ大おむしと抱るるとおりて義人

なりし方乃将監に

喜重 母曰

てあひの君とのふりて

あはゆし人

源か細玄妻 母前妻

續波守妻

あ将山方 母今方

あお乃君とのひし將乃引えりし人

大宰大貳

源氏とゆふにゆふはけりし人

あはゆし人

筑前守 ちの使し人

あは

宇りてわひらねし人にて又にも一して治る巻  
 代はゆ又の衣巻し女巻ふと源氏も言はれり  
 大宰少貳

夕ぐわりののりたのたせい

豊後女

又う女は後玉おはねの君とくしとわりの家  
 院へらりねしはともおまひるにさかき

次郎

三郎

い三人にけしつらぬくきくきくきくきくきく

楊名女毒 夕良巻よき

姉沙も

是えはくしわあつさくしのほね

若部君 せやけあききしひき娘若し奥との  
 若部大物 けんとくしとくし

若部命婦 母たはつ乳母

未はひ若のそくきんしとくしとくし

不我系局人

以今案卷注之於童氏才  
おろそ我之

相燹

後冷殿更衣

相燹更衣母

朝負命婦

内侍よりけ

右大弁

典侍 あつみのりやうりやう  
しんがのまけり

後在燹の御母名

大就彌

内侍

命婦

第本

右馬頭

後式部兼

右少輔

大納言

本振女 たむらひ

侍士 あつみのまけり

後式部書侍女

中納言 あつみのまけり

中務 あつみのまけり

中将表 あつみのまけり

空蟬

臣部乃おとし

一本の物のおとし

夕顔

大貳乳母 惟光母

三河守

楊名女

中将君 あつみのまけり

右近 あつみのまけり

惟光父の乳母

夕良上乳母 あつみのまけり

院人 あつみのまけり

文章侍士

着せ

少山内

少山侍部

はるのまけり

あつみのまけり

是上外祖母 あつみのまけり

ぬき

少納言乳母

少山侍部子

日命婦

弁 あつみのまけり

太子正室上女房 左近少輔左女房 はなはた

中納言

大納言 大納言令婦 筑前守 大納言

右近大納言 大納言 中納言 藤原 未納言 のり

左近大納言 藤原 中納言 藤原 大進令婦

肥後采女

弘兼

藤原正房 藤原正房 藤原正房 藤原正房

大納言 大納言令婦 藤原 中納言 藤原

中納言 藤原 中納言 藤原 中納言 藤原

大云 一院 源典侍

修理大夫

花乃之七 別人

葵上

中納言 藤原 中納言 藤原 源典侍

山乃 藤原 宰相君 藤原 中納言 藤原

あて 藤原 日令婦 藤原 中將君 藤原

舟中納言 藤原 乳母の女

あつさ

日令婦 内侍 藤原 中納言 藤原 乳母

上上継母

中納言の女院

中納言君長女

弁女房

中又女

式部女房

友坪沙母君

山内

横川信教母

花ちふ屋

相模守の女御

花ちふ屋上女房

女婿

さし返

花ちふ屋

中納言君女房

宰相君女房

上上継母

相模守の女御

少納言君女房

中納言女房

中將日

王命婦

少納言部

中納言君女房

少納言君女房

片祢のり

大貳乃少方

少納言母

の石

女房

の石上母

花教屋上

さし返

夕房

中納言女房

中納言日

花教屋

相模守の女御

按津守

中納言女房

中納言日

中納言女房

達生

侍従

女院ふにん

侍従しじゆう

大貳だいじ

大貳だいじ

大貳だいじ

侍従しじゆう

未摘みとく

未摘みとく

花教けう

用屋もちや

用屋もちや

給たまは

前まへ

修理しゆり

平内へいうち

侍し

侍し

大貳だいじ

侍し

中將ちゆうしやう

中將ちゆうしやう

陰かげ

近ちか

中將ちゆうしやう

松まつ

花教けう

侍し

中將ちゆうしやう

民教たみけう

中將ちゆうしやう

侍し

花人けうじん

侍し

侍し

松まつ

侍し

侍し

侍し

中將ちゆうしやう

侍し

侍し

王命おうめい

侍し

侍し

侍し

侍し

侍し

権母院宣旨 臣部父方おき 大中弁日

入字の旨より人控風の 式部大物日

大内紀 雲乃房母 梅原大細玄の今のお方

小侍従 平乃房の 宰相君父方の 雲乃房の乳母

後内侍母 花ちる子 雲上徳母

玉切つ

右近 大支監 少貳妻

三糸少貳の妻 下女 花好室

大付音

中将 花ちる室

こころ

中文高 右近 名家玉切つ

雲

大支監

かきつ

あつみの君 五節君 妙法寺別當大徳

大支の君弘徳殿 女房 中御名目

かきつ

うらむ うえん大支

那分

宰相君

秋女の女房

内侍 日

花忍軍

存るゆ

夕方の家人の

新章

右大臣

苑人た清尉

ぬちん海

弁 玉ころの女房

ゆささし

弁

玉ころの女房

本之君

おきかゝの友女

中侍

日暮ころの女房

宮上後母

中納言

宰相

日暮ころの女房

うしこ

梅う枝

大貳

六条院の番

花忍軍

内侍

日暮ころの女房

たちお

喜多あはれの人

た清猪

羽織り

五雲力房のあつと

右大臣

夕方の女房

中侍 宮

日上

友れう系

中侍 宮

右近将監

灌佛沙塔す師

五雲力房母

ゆき上母

花ち海坊

たしあめめ

五雲力房のあつと 六條まきせいりん

宰相乳母

たあお

右あお

若菜上



朱彦院の友太皇母更衣 女三宮乳母 九中弁 女三宮の

友太御女 朱彦院別當女三宮の 友太御女 朱彦院別當女三宮の 友太御女 朱彦院別當女三宮の

中宮控高 院の友太御女 山内 山内 友太御女 山内

中勢 源氏 中將 日 中御女 源氏

和泉前司 勝月英の手御女 中御女 源氏 女三宮乳母

右大将 春文宣旨典侍 中將 源氏 花ち御女

明石上母 春文宣旨典侍 中將 源氏 花ち御女

小侍 女三宮の乳母 春文宣旨典侍 女三宮の乳母 花ち御女

若菜下 女三宮の乳母 春文宣旨典侍 女三宮の乳母 花ち御女

若菜上母 女三宮の乳母 春文宣旨典侍 女三宮の乳母 花ち御女

花ち御女 女三宮の乳母 一葉御体不 女三宮の乳母 小侍 女三宮の乳母

侍 女三宮の乳母 一葉御体不 女三宮の乳母 小侍 女三宮の乳母

源中將 女三宮の乳母 一葉御体不 女三宮の乳母 小侍 女三宮の乳母

源中將 女三宮の乳母 一葉御体不 女三宮の乳母 小侍 女三宮の乳母

源中將 女三宮の乳母 一葉御体不 女三宮の乳母 小侍 女三宮の乳母

源中將 女三宮の乳母 一葉御体不 女三宮の乳母 小侍 女三宮の乳母

源中將 女三宮の乳母 一葉御体不 女三宮の乳母 小侍 女三宮の乳母

源中將 女三宮の乳母 一葉御体不 女三宮の乳母 小侍 女三宮の乳母

源中將 女三宮の乳母 一葉御体不 女三宮の乳母 小侍 女三宮の乳母

源中將 女三宮の乳母 一葉御体不 女三宮の乳母 小侍 女三宮の乳母

きん

女三宮乳母

式部大物

左衛門将

夕旁

一乘沙体不

律師

少将兼一乘女房

大吏ちと乃せうと

大吏乃乳母

大和守かきうらさうと

左近一乘女房

沙汰

花ちゆ里

ゆわう

中細玄君 中将兼

花ちゆ里

信部

はま上程弘のちむせはけらとこわ 佛者沙遣守作

白文 判

乳母

梅原大細玄友小方

竹河

た子乃君 ならき

中将乃おとと

宇治部

くく 元史

阿曾梨

小侍女三

柏木乳母弁乳母

左近将監 あつらふえ乃使

推しこむ

あさり

総角

あさり

中宮大進

白文の侍乃

早蕨

阿闍梨

大進君

中文の女房

屋敷

上野文

屋敷

大進君

白文の侍乃

信部

梅原君

阿闍梨

大進君

大將

中文大進

侍従

衣の女房

わけ由衣

源少細云

源波守

大進君

右近

大將

中文の女房

中宮大進

平重經

侍従

女房

くさき

大進君

大進君

大内記道定

右近

大進君

右近

女房

侍従

因幡守

大進君

大進君

浮舟乃乳母の女

白宴乳母

交納の儀はさしきりての  
國へさしきりし事

右近 ちまうじとあ

山乃有

右近 いひはちま  
りしとあ

内舍人

右近

ちまうじとあ

かけり

右近 のりきり  
の女房

浮舟乳母時方

右近  
ちまうじとあ

うきよね  
ねの女

日大徳乃とらの阿雲

大吏 左の所  
の女

うきよ  
ねの女

仲伝

阿雲 今  
の律師

小宰相 二  
の女房

大細 二  
の女房

乃右 乃  
の女房

又乃右の母 乃  
の女房

并代 乃  
の女房

中将 二  
の女房

乃右

横川 乃  
の女房

日信 乃  
の女房

乃右 乃  
の女房

乃右 乃  
の女房

乃右 乃  
の女房

乃右 乃  
の女房

乃右 乃  
の女房

乃右

乃右

乃右

乃右

乃右

乃右

乃右

乃右

乃右

乃右

乃右

乃右

乃右

乃右

乃右

横川信部

そのた

そのた

紀伊守

光原氏の物語系最と云ふものは既に伏見  
出来上人の志と相違しと云ふも是日まら  
しと云はれりまら上人かき定て辰持書写乃  
お屋内よりすゆるしこのよれば物語の心持を  
しと云はれり三年の年をいふにわいさし  
五十銘状にち志川系をきりて煩乱を  
うらむしき浮行と云ふなり乾平氏族

うらむと云はれりまら上人かき定て辰持書写乃  
しと云はれり三年の年をいふにわいさし  
五十銘状にち志川系をきりて煩乱を  
うらむしき浮行と云ふなり乾平氏族  
そのよれば辰持の志と相違しと云ふも是日まら  
しと云はれりまら上人かき定て辰持書写乃  
お屋内よりすゆるしこのよれば物語の心持を  
しと云はれり三年の年をいふにわいさし  
五十銘状にち志川系をきりて煩乱を  
うらむしき浮行と云ふなり乾平氏族  
そのよれば辰持の志と相違しと云ふも是日まら  
しと云はれりまら上人かき定て辰持書写乃  
お屋内よりすゆるしこのよれば物語の心持を  
しと云はれり三年の年をいふにわいさし  
五十銘状にち志川系をきりて煩乱を  
うらむしき浮行と云ふなり乾平氏族

之違乃き... 系番乃... 守り中... 将来の君子... 是れ... 長享三年... 武陽の三月...



